レッスン：SPA.NO.20

テーマ：イドロプラシーの練習

SPA20/K6/10/11/12

私の姉妹・兄弟たち、

スピリット、光、火の子供たちよ。

私たちは常に主、絶対、主の聖性によって守られています。

これまで、様々なエーテルの特質について何回も話してきましたが、ご存じのようにエーテルの特質には四つあります；いわゆる運動エーテル、感覚エーテル、刻印エーテル、そして最後は創造エーテルの四つです。しかし最後の特質については、これまで何回も述べてように私たちはそれにはタッチしません。

創造エーテルは聖霊的現れ、聖霊の監督下にあり、創造エーテルのセンターはいわゆるクンダリーニです。現在のパーソナリティーはこのセンターには全く触れません。この特質の活性化は他の三つの特質をマスターした結果として生じるものです…そのパーソナリティーがその特質を使用する準備が出来たとき、同胞の人間のためにそれを使用する準備ができた時に。それ以前は使いません。

何回も述べたように、多くの人々は不幸にもこのセンターに触れています…そのセンターを活性化することによってパーソナリティーはパワーと能力を現すことができる、パーソナリティーはインナーセルフを現すことができる、と主張して。ですが、これは全くの間違いです。実際にそこで生じているのは、エネルギーが上昇する代わりに下に向かっているのです。なぜなら、無知のなかにいる間、パーソナリティーは上ではなく下を向いているからです。上を向くべきものが下を向いています。なぜならパーソナリティーは地にフォーカスしているからです。五つの超感覚ではなく、五感を使用しながら自らを表現しています。

ですから、パワー、能力として実際に表現されているものは現在のパーソナリティーが表現しているのではなく、反対に地のエレメンタルが表現しているのです。ですから、他人を助けることを願い、光の奉仕者になることを願う真剣な真理の探求者はこのセンターには触れません。そうです、私たちは他の三つの特質を扱い、そうすることによってより良いセルフの表現のためにワークを行う、つまり現在のパーソナリティーの三つの体についてワークをします。それは全く同じ事です。

いわゆるイコノプラシー、サーフェスオプラシーと共に、エーテルのこれら三つの特質をマスターするためにワークをする必要があると述べました。しかし、最も真剣なワークはいわゆるイドロプラシーです。過去に私たちはいわゆるエレメンタルに関して多くの知識を提供し、同時に二つのタイプのエレメンタルがあると話しました。

最初のタイプはいわゆる欲望的想念であり、二番目のものは最も重要なものでありそれは想念的欲望です。しかし、無知にある間は人間は無数の欲望的想念のエレメンタルを創造します。現在のパーソナリティーのあらゆる弱さ、弱点の結果としてそれら無数のエレメンタルを生み出します。そうです、現在のパーソナリティーには無知という言い訳がありますが、しかし真剣な真理の探究者においてはそのようなエレメンタルの創造は徐々に変化していく必要があります。

現在のパーソナリティーは二番目のタイプ、いわゆる想念的欲望のエレメンタルを表現するようなステート（状態）になるのでしょうか？実際にはノーですが、しかし何が生じるかと言うと、探求者たちはそのようなエレメンタルを創造できるようになります…それはその人の真の現れの結果としてではなく、努力、知識の結果としてです。

過去に私たちは、記憶の現れとは実際には現在のパーソナリティーが潜在意識から放つものだと述べました。それではこの種のワークにはどのような感覚が用いられるのでしょうか？なぜならそれはワークだからです；五感でしょうか？違います。ある人が記憶を現わすには、過去の出来事を現在にもたらすためには、感覚として五つの超感覚を使います。ファンタジー（空想）についても同じ事が言えます。誰かが空想を現す時、それは五感ではなくて五つの超感覚を用います。

Page2

ファンタジーとは何でしょうか？ご存じの通り、無から生まれるものはありません。無からは何も生じません。ファンタジー、幻想の背後にはリアリティーがあります。このリアリティーがどのようにして、ある気づきのレベルによって表現されるか、それは全く別の問題です。ですから、そのリアリティーが気づきのフィルターを通過し、ファンタジーとして現れます…ここでもまた五つの超感覚の使用を通じて、です。しかし、無知にある間は人間は一般に五つの超感覚を意識的ではなく無意識的に用います。私たちの目的はこれら五つの超感覚をもっと意識的に使用することです。エーテルの三つの特質をマスターしようと努力する上で、私たちは五つの超感覚をこの種のワークに使います。

ですから、イドロプラシーとは、何であれあなたがフォーカスするものを視覚化（イメージ化）できるようになり、その視覚化をいつでも意のままにできるようになることです。この部屋に入り、あなた方のなかでこの部屋の様子を細かいところまで全て気づいている人が何人いるでしょうか？この部屋の大きさ、それがどのように見えるかを認識しましたか？ですから、これから私たちは自分の周囲の全てに注意を払う必要があります。それには多くの努力が必要であり、うまくできるようになるには大いにワークしなければなりません。この種のワークには全ての五感を使いますが、しかし視覚化においてそれを再現してイメージするには五感ではなくて、五つの超感覚を用いるのです。

ですから、ワークは初めは五感を用いますが、視覚化でそれを表面にもたらす時には五つの超感覚を使うのです。この種のワークを通じて、私たちは運動エーテル、感覚エーテル、刻印エーテルという三つのエーテルの特質をマスターしようとします。最も難しいものは刻印エーテル、つまり見て、それを視覚化し、それを表面に持ってくることです。この能力、つまりいかなるイメージであれそれを表面に持ってくることができる能力、これは誰かを助ける上で非常に重要なものです。助けを必要としている特定の人を視覚化できる能力が求められます。

それでは私たちはイドロプラシーをどのように始めたらいいでしょうか？最初はあなたがよく知っているものから始めます。例えば、オレンジを取り上げます。そのオレンジを観察し、それを何回も見ます。その大きさ、色を観察します。そして目を閉じても、そのイメージが維持されねばなりません。そのオレンジは目を閉じてもイメージとしてあなたの前にあります。イメージが消えたら、目を開いてオレンジを再び見て、また目を閉じてその視覚化されたイメージを維持します。これが練習のやり方です。ただ、五感全部を使うことのできる何かを使って練習すべきです。

さて、オレンジを見ますが、それは視覚という一つの感覚です。しかし、あなた方はそれを味わい、またその匂いを嗅いだことがあると思います。ですから（＊味覚、嗅覚という）二つの感覚が加わります。また勿論、それに触ったこともあると思うので、（＊触覚が加わり）四つの感覚となります。五つ目は何でしょうか？聴覚です。口にオレンジを持ってくるとき、あなたは何も聞こえないと考えます。しかし、そんなことはありません。他の感覚があるのに、それと同時に聴覚が働かないということはありえません。何も音が生じないということはありえません。動くと音が生じます。ですから、この種のワークでは五感全部を用います。

徐々に、少しずつこれらの超感覚が刺激され、下向きの五芒星ではなく、それを元の位置である上向きに戻すという私たちの目的が達成されます。つまり現在のパーソナリティーが五つの超感覚を現すこと、それはまたエーテルの特質をマスターし、現在のパーソナリティーの不定形な諸体をマスターし、最終的には現在のパーソナリティーが自己実現に到達すること、つまり実存の諸世界と存在の諸世界の境目に現在のパーソナリティーが到達することでもあります。それは**自己実現**と呼ばれます。それは最初の磔であり、その時現在のパーソナリティーの三角形は、その三辺が等しくなり、ロゴス、天なる父、絶対存在の三角形と同じになるのです。

**生命の木**の上では、これは現在のパーソナリティーの三角形です。最初はその辺は等しくありませんが、現在のパーソナリティーがそのポジションに到達すると、つまり最初の磔に到達すると、全ての辺が等しくなり、息子、キリストロゴス、汎宇宙的キリストロゴスの三角形と同じになります。それはまた、絶対存在に属する一番上の三角形とも同形となります。

Page3

ですから、私たちはエーテルの特質のマスターに向けてワークをする必要がありますが、完全にマスターすることはそのポジション、つまり最初の磔に到達した時のみ可能となります。私たちは真理に向けて進んでいますが、その間に真理の探究者が行うことは相対真理の様々なレベルを相対的にマスターすることです。

ですから繰り返しますが、あなた方の前にはたくさんのワークがあります。明日からあなた方は自分の周囲にあるもの全てに注意を向け、それらを観察し、もし可能ならそれら全てを詳細な部分まで思い出せるようにします。

覚えているかもしれませんが、以前あなたの潜在意識に暗示を与えて、あなたが紙の上に書いたものを視覚化するように、と言いました。例えば、「同胞の人間たちが私にいかなる態度を示しても、私は怒らない」と紙の上に目立ちやすいように赤い色で書きます。そしてそれを視覚化して、寝る寸前にそれを目の前に見ます。なぜなら、寝る寸前には潜在意識のドアーが開き、その時に潜在意識の中に置いたものは潜在意識の海の表面に留まるからです。そしてあなたがそれをすればするほど、徐々にあなたの思考・行動の仕方が変わり、気づきのレベルが変わっていきます。

ですから、今晩からでなくても、明日から始めなさい。これからも沢山のエクササイズを提供しますが、それはあなた次第です。もしより良いセルフを現し、気づきのレベルを高め、同胞の人間たちにもっと助けを与えられるようになり、光の奉仕者となり、ヒーラーとなりたいなら、一生懸命にワークを行い、エーテルの特質のマスターに向けてワークをする必要があります。そうです、美しい花の視覚化を試みることもできるのです、やってみてください。

これまで、その種のワークのエクササイズをたくさん行ってきましたが、これからもそれらのエクササイズ全てを繰り返します。そして、近いうちに私たちはまた四面ピラミッドのなかでの以前のワークに戻りますが、それは将来のことです。

私たちは常に主、絶対、主の聖性に抱かれています。

**質問**

質問：動物たちは死という現象の後はどうなるのでしょうか？

Ｋ：動物たちはアークエンジェルのオーダーのエレメンタルです。動物たちはロゴスの下降、人間の下降とは何の関係もありません。動物たちは聖霊的な創造物、現れです。動物には彼らを生かすスパークとしての**生**の息吹があります。**生**の息吹です。

人間は**絶対存在**から下降し、人間は神、絶対存在の一部分です。左側のここ、それは小宇宙的には私たちの左手側に相当しますが、ここは創造界への聖霊の下降です。ここ（右手側）はロゴスの下降であり、ここ（左手側）は聖霊の下降です。ここ（右手側）はセルフ・エピグノシスの下降であり、それは意識、純粋意識の下降です。このポジション（左手側）には動物や植物がいます。このポジションは「どこで」というものです。というのも、実際、どこでという意味がありません。それは他の生の王国のアークエンジェルによる創造であり、それは生の現象です。ここ、このポジションは元型、それらの王国つまり動物界および植物界のイデアです。

さて、あなたの質問に答えますが、死の現象によって動物に何が起こるのでしょうか？動物は実際には意識を現しません。意識はそれらを創造し、現したアークエンジェルに属します。そして動物たちは本能というかたちで意識を現し、その本能は同じ種の動物すべてに共通するものです。そしてそのグループ全体がその種を担当するアークエンジェルおよび天使の意識に加わります。動物が「死ぬ」と、その動物の本能はアークエンジェルに戻ります。

Page 4

さて、問題は…他の実存の世界、つまりいわゆるサイコノエティカル界にも動植物界が存在するだろうか？…というものです。答えはイエスですが、ここ（＊この世界）にいた動物ではありません。もしあるパーソナリティーがサイコノエティカル界を訪れるなら、そのパーソナリティーはかつてこの世界のバイブレーションに生きていた特定の動物に会うのでしょうか？どう思いますか？夢のなかであなた方は動物を見ますか？動物を見ますね。どの動物でしょうか？この世界であなたが親しんでいた動物です。あなたが知っている動物です；しかし、誰がそれらを創造するのでしょうか？それを創造するのはあなたです。というのも、それらの諸世界ではそのパーソナリティーは意識的ではなく無意識的に創造エーテルを使っているからです。

誰もが同じ場所に行くわけではありません。それらの諸世界の環境は誰にとっても同じということではありません。気づきの数と同じだけのサイコノエティカル界があります。なぜなら、この世界のバイブレーションから現在のパーソナリティーの現れの別の諸世界に入るとき、その諸世界の環境を創造するのは自分自身だからです。マリア、コスタス、エレニなどそれぞれの人が、この世界にいた時に知っていた自分自身の環境をそこでも創造するのです。彼らはこの世界にいる時に知らなかった「天国」あるいは「地獄」に行くわけではありません。なぜなら、自分がそれまで知っていた世界をそこでも創造するからです。勿論、（最終的には）彼らはそれぞれのパラダイスに入ります。なぜなら、そこで苦しみを経験すると、もはやそれを創造しなくなり、その結果自分のパラダイスに入るようになるのです。

死んでいく人は誰をも、何をも失うことはありません。というのも、そのパーソナリティーは自分はまだここにいるという幻想を抱いているからです。それは神のお慈悲です。なぜなら、神は私たちを罰することはしないからです。自分で自分自身を罰するのです。ですから、生の現象の別のバイブレーションに入っても、知っている人を失ってしまうわけではありません。そうです、私たちは親しんでいた動物たち、家にあった植物その他を携えて行くのです。しかし、それら全ては自分自身の創造物であり、そこで私たちが創造する人物たちはこの世界でしていたのと同じような言動、振る舞いをします。私たちが愛した人々は、私たちがそうあって欲しいと思うように振る舞うのではなく、実際にこの世界で振る舞ったように振る舞います。

それは多様性、多重性としての**生**の能力であり、素晴らしいものです。ある人が自分自身を同時に複数の場所で現わすことができます。またもし多くの人々がこの世界で知っていたある人を他の世界において創造するとすると、例えば、100、2000の同一体、2000の同一体全てがその特定のパーソナリティーの意識と結ばれるのです。これは特別なことではなく、誰もがその能力を持っています。なぜなら、人間はその内側に**生**のスパークを有しているからです。繰り返しますが、動物は**生**の息吹の結果です。あなたが現在のパーソナリティーの自己実現に到達した時には、そのようなエレメンタルをいくつでも好きなだけ創造することができます。しかし何のために？他の人々を魅了するために、あなた自身に注意を引きつけるために？違います。あなたが創造しようとするのは他の人々を助ける天使であり、イドロプラシーです。そのために私たちにはこの種のワークが必要なのです…視覚化できるようになり、いつでも、どこでも意のままに視覚化が可能となり、ヘルパー、天使、エレメンタル、像として天使を送り出すのです。

そのために、あなた方がエレブナの会員となるときには写真の提出を求めているのです。なぜなら、私たちはあなたのバイブレーション、あなたのアイデンティティーが必要だからです。その結果、私たちはエレメンタル、天使を創造してあなたを導き、助けます。あなたが必要とするときに助けるのです。

質問：ある人が自動的に繰り返し生じるようなことを経験をするのですが、それは意図的に行うような呼吸法とも関係ないのです。しかし定期的に自動的に起こるのですが、どうしたらよいでしょうか？

Ｋ：それを完全に無視するのです。それにフォーカスせず、その特定の経験を忘れるようにするのです。なぜなら、そこで起きていることは、エネルギーが下に向かっているのです。というのも、無知にいる間は人間は上を向いていないからです。五芒星は上を向かずに下を向いています。無知のなかにいるからです。私たちは無知にある間は地のなか、地面の中にあり、四面ピラミッドの下にいます。そしてこの**生命の木**、創造界のセルはあべこべになっています。なぜなら、私たちが経験しているのはリアリティーではなく、その影だからです。その種のワークは真剣な探求者のためのものではありません。

そうですね、そのようなワークを行う人々によって多くの現象が生じています。しかし、現れるパワーあるいは能力はそのパーソナリティーによるものではなく、地のマスターであるサミュエルの監督下にある様々なエレメンタルによるものであることを理解する必要があります。サミュエルはルシファーのエレメンタルであり、勿論人間の無知に奉仕しているものです。実際、彼らは体験を得ようとする人間に奉仕しています。創造エーテルは決して触れるべきものではありません。それは加えられます。このエーテルをマスターしようとワークすべきではありません。それは与えられるでしょう。過去の多くのスクール、グループは、創造エーテルが流れることによって他のセンターも刺激される、と主張していますが、それは違います。私たちは前進しています。過去に達成されたことを今に持ってこようとしないでください。過去は過去であり、私たちは現在の達成から恩恵を受けるべきです。そして現在達成されたことも、明日には過去の一部となるのです。私たちは常に自分の前にフォーカスすべきで、決して後ろを向くことはしません。なぜなら、過去に属するものは、現在よりも遙かに低い気づきのレベルの結果だからです。私たちは絶えず啓発に向けて進んでいます。

それらの達成、それらの練習はそれら過去の人々には助けになったかもしれません。しかし、実際、過去の人々が現したパワーとか能力はマジックを使用した結果なのです。それゆえにそれらの時代には、いわゆるそれらの時代の神秘家といわれる人々でも多くの暴力があったのです。だから過去の文明が没落したのです。なぜなら、彼らは自分たちの戦いにそれらのパワー、マジックを使用していたからです。それゆえ、ヒーリング能力を高めるコツについてよく質問されますが、それらは問題外です。

ヒーリングについてよく質問されますが、それは気づきの上昇の結果であるべきです。ヒーラーになるための突貫コースなどはありません。より良いセルフを現すための、気づきのレベルを高めるための突貫コースなどはありません。より良いセルフを現すためには、同胞の人間たちのためにより役立つ人間となるためには、多くのワークがあります。毎日の生活のなかでは他の人々と同じように普通に生き、そして同胞の人間たちに愛を示し、抱きしめます。これがあるレベルまでのヒーリングのワークです。

ヒーリングとはアガピ、愛、神の愛を表現する結果であるべきです。なぜなら神は絶対愛であり、それは全ての人の内側から現すことができるものです。なぜなら、繰り返しますが、ロゴスは全ての人の内側にあり、ロゴスにはパワーがあるからです。ロゴスは絶対存在の一番上の三角形から創造界へと下降します。それは絶対存在のロゴス的本質であり、私たちは神の道を歩もうとしているのです。しかし、私たちは道とは反対の方向に向いているので、180度回転して道に向かい、上に向かって昇る必要があるのです。もし私たちが出発地点に戻りたいのなら、これが私たちの取るべきやり方です。

ですから、ヒーリングはあなたの同胞の人間たちにアガピを表現する結果であるべきで、勿論その表現には様々なレベルがありますが、それを利己的に行うべきではありません。決して、あなたが行っていると主張すべきではありません。それを行っているのは内側にあるスパークです。なぜなら、神は内側にあり、繰り返しになりますが、私たちの生のスパークは主、神だからです。なぜなら、ロゴスはパーソナリティーではなく、アガピ、汎アガピとしての絶対存在全体だからです。神は絶対愛です。

質問：マントラを使って瞑想してはいけない、アガピという言葉だけを使うべきだと言われましたが、私は真理という言葉に集中したいのですが、それは間違っていますか？

Ｋ：実際には私たちはマントラとしてアガピという言葉さえも使いません。ロゴスに同調するためにだけアガピという言葉を繰り返しますが、それ以外の目的には使いません。私たちはいわゆる過去の多くの信念体系と同じやり方でマントラのメソッドを使用しているのではありません。現在でも、そしてキリスト教のなかでさえ言葉の繰り返しを使っているグループがあります。現在の信念のなかにも過去からの影響がたくさんあります。なぜなら、人々がいろいろな教会を形成したとき、彼らは過去の信念から影響を受けたからです。それゆえに言葉を繰り返すということが頻繁に行われているのです；言葉の繰り返しはたくさん使われてきており、現在でも魔術は行われています。ですから、私たちはマントラにはタッチしません。アガピという言葉をほんの数秒使うだけです。それは私たちの内側に存在する（同時に私たちは神の愛の海のなかで泳いでいるのですが）神、絶対愛に同調するためです。

質問：あなたが動物について述べた時、私は動物たちはアークエンジェル的形、あるいは現れだとわかりました；そこで私の質問は、なぜ犬を虐待したり殺したりする人々がいるのか、ということです。人間のなかにはそういうことをする人もいるわけですが、何らかの理由でとても幸運な動物もいます。なぜ“幸運な”動物と“不運な”動物がいるのでしょうか？

Ｋ：動物たちは原因・結果の法則に影響されません。人間が動物を傷つけているとき、実際にはその人は自分自身を傷つけているのです。なぜなら、人間はその結果を被るからです。人間には犬を虐待する権利はありません。というのも、犬、動物たち、あるいは植物さえもそれらは人間が創造したものではないからです。わかりますか。ですから、それは実際それらを創造したアークエンジェルを傷つけているようなものです…勿論、その人間の無知の結果として。しかし、それでもそのような行為をする人間は原因・結果の法則の影響を受けます。それは他の人間を傷つけるのと同じです。

質問：わかりますが、しかし個人的には理解できません。例を取れば、殺されたのではなくとも事故に遭遇する犬がいます。なぜその“X”という犬は事故にあい、“Y”と言う犬は事故に遭うことなく、素敵な家に住んでいるのでしょうか？

Ｋ：もしその特定の動物が誰かに飼われているのなら、その飼い主が苦しむでしょう。それについて考えて下さい。もしその動物が飼われておらず、例えばジャングルに住んでいるなら、ある動物が別の動物を捕らえて食べるでしょう；あなたはそれをどのように説明しますか？ジャングルの法則の中でです。それについて考えて下さい。多くの動物が他の動物に食われますが、他の動物を食べる動物は原因・結果の法則によって影響されるのでしょうか。あるいは他の動物に食べられてしまった動物は不運なのでしょうか？それについて考えてみてください。あなたは創造主が特定の動物には例外を設けると思いますか？動物および植物界は人間が個別性を表現するのを助けるために、人間が経験を経るのを助けるためにあるのであり、それ以外の何ものでもありません。私たちが植物を傷つける場合でも同じ事が言えます。あなたは植物は話さないと思いますか？植物も話します。彼らにも声があるのです。

質問：それなら私たちは何を食べるべきでしょうか？

Ｋ：だから私は植物あるいは動物は実際には同じです、と言っているのです。唯一の違いは、動物は人間と同じ肉という同じ物質の形を持っています。唯一の違いは、あなたが現在のパーソナリティーの自己実現に到達するときには、“**生**”のその形態を創造することができるという点です。意識的にではなく超意識的に創造エーテルを使うことができる、ということです。

私たちは常に主、絶対、主の聖性に抱かれています。

EREVNA SPA/20/DOC/K6PYR10/11/12